

平成22年度 事業評価（事業活動記録）

事業No. 395

所管部局	美山支所	所管課	産業建設課	担当者名	中野 修
事業名	特別栽培認証制度推進事業			事業分類	ソフト事業
細事業名	特別栽培認証制度推進事業			政策体系	232
会計	一般会計	科目	6.農林 - 1.農業 - 3.農業		

1. 事業の概要

消費者ニーズに合わせた安全・安心な野菜づくりのための独自栽培基準によるブランド化によって、特色のある産地の形成を行う。その制度の普及活動、販売促進、HPの管理運営業務を行う。

2. 事業の目的と必要性

①施策で目指す目標との関連付け

消費者のニーズに合わせた減農薬・有機野菜づくりのための独自基準によるブランド化によって、特色のある産地の形成を行う。

②事業を実施する必要性

独自の栽培基準により、消費者に安心感と信頼感のある農産物として確立し、野菜のブランド産地として農家所得の向上を図る。

3. 事業費の推移

	単位	平18決算	平19決算	平20決算	平21決算	平22予算	平23計画	平24計画
決算額または計画額	千円	3,468	3,148	2,790	2,790	1,674	2,790	2,790
うち一般職・嘱託職・臨時職の給与および共済費等	千円	0	0	0	0	0	0	0
財源内訳	使用料・手数料等	千円	0	0	0	0	0	0
	国・府支出金	千円	0	0	0	0	0	0
	地方債	千円	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	3,468	3,148	2,790	2,790	1,674	2,790
職員等の従事人員	人/年	—	—	0.30	0.12			
人件費	千円	—	—	1,739	794			
事業費総額	千円	—	—	4,529	3,584			

※事業費を要しない場合は「0」、事業を実施しない場合は「空白」で表示。
 ※千円未満を四捨五入し表示しているため、合計等が一致しない場合がある。

4. 主な事業費の内訳

特別栽培認証制度推進業務委託料	2,790,000円
委託料内訳	
人件費	2,640,000円
ホームページレンタルサーバー	37,000円
フレッシュ袋作成	113,000円

5. 事業結果の概要

年度当初に町内農家宛の認証制度説明会を実施。説明会と資料送付にて48名に概要を説明し、今年度の制度参加者は18名。事業の啓発と販売促進のために行っていたNPO伏水サポートの野菜ボックス対応や、NPO京都環境アクションネットワーク対象の販売活動を継続しつつ、新たに芦屋のさくら祭りやみやこメッセボランティアフェスタ、醍醐環境フェスタなどのイベントでの啓発活動を実施。

6. 活動の詳細

活 動 内 容	活動日又は時期	活動結果等
(1) 認証業務		
● 認証制度説明会 美山町内の全農家を対象に、認証制度説明会参加を呼びかけ町内4会場にて、制度の概要を説明。	平成21年5月14日	認証制度説明会参加通知220名 説明会参加者48名
● 認証制度生産者から提出された栽培計画書の確認 生産者から提出される栽培計画書の施肥・施肥が特別栽培認証制度の定める基準に適合しているかを確認し、不適合の場合は変更を指示する。	平成21年5月～6月	栽培計画書提出者数18名
● 認証制度の基準についての検討会議 生産者が参加しやすく、消費者が理解しやすい認証基準について代表的な生産者や、販売店と検討。	平成21年4月～6月	
(2) 付加価値		
● 共同堆肥づくり実施 共同堆肥づくり部会で、自らが安心・安全な良質堆肥をつくり、施肥することで認証野菜に付加価値をつけ販売し生産者の所得の向上を目指す	通年	共同堆肥製造量100m ³ 購入者30人
(3) 宣伝・啓発・販売		
● NPO伏見サポートの野菜ボックス対応（発注・集荷・納品・配達・事務作業）	平成21年4月～翌3月	
● NPO京都環境アクションネットワーク野菜市での啓発活動	平成21年4月～翌3月	
● イベントでの啓発活動 第21回芦屋さくらまつり みやこメッセボランティアフェスタ 醍醐アルプラザ醍醐環境フェスタ	平成21年4月～翌1月	
● 産直コンテナ対応（発注・集荷・納品事務・配達）	平成21年4月～翌3月	

7. 所属長評価〔平成20年度から改善した点、今後の展開など〕

食の安心・安全に対する消費者ニーズが高まる中で、減農薬・有機野菜づくりのための独自基準によるブランド化と特色ある産地形成が求められている。
府下唯一のモデルタウンである美山有機農業推進協議会の活動を全市に拡大するとともに、生産者、消費者が共に納得できる独自の認証基準を確立し全市に普及していく必要がある。

【参考】過年度の評価

■平成21年度の所属長評価

- ①有効性・効率性を向上させるため、担当職員と議論を重ねた点
農薬・減化学肥料野菜及び有機野菜の推進は、地域ブランド確立の上でも重要であり、生産者の会員拡大と販路確保などについて議論を重ねた。
- ②当該事業のアピール事項
「美山有機農業推進協議会」が平成20年度に国のモデルタウンとして採択を受けた。有機野菜・有機米のブランド化を図り全市に拡大していきたい。
- ③反省点、今後の展開・方向性等
生産者・消費者が共に納得できる認証基準を確立し全市に普及していく。